

## 「就職率100%」工業高校の秘密

久保田憲司 著

奈良県立王寺工業高等学校は、かつて札付きのワルが集まり、荒れた学校として有名であった。ところが、筆者である久保田教諭が勤務した14年間で一変し、国際科学技術フェア(ISEF)で世界第2位を獲得したり、就職率100%を実現するなど、日本一礼儀の正しい学校になった。

本書は、荒れた学校を立て直す筆者の様々な取組が詳細に記述されており、教師によって学校が変わるというサクセスストーリーである。

筆者がまず取り組んだことは、赴任して最初に同僚から言われた「久保田先生は、前任の学校で遅くまでクラブ活動を頑張ってはったけど、王寺工業で生徒を8時まで残せたら大したものやで」の一言であった。生徒が「ものづくりの面白さを知れば、8時までなんて、あっという間だ」という確信から、クラブ活動を活性化しようと立ち上がった。筆者の担当したクラブは無線部である。無線部でロボット製作に取り組み、ロボット相撲大会に出場しようと4人の生徒たちと自立型相撲ロボットの勉強を始めた。生徒たちは、相撲ロボットの製作が面白くなり、夜8時があっという間になった。筆者は、生徒たちが夢中になってものづくりをしている姿を見ながら、「こいつらは、やる気がなかったんやない。引っ張ってくれる大人がいなかっただけなんや」と、あらためて感じたそう。その後、校長が「クラブ活動活性化」という方針を掲げ、それに本気で取り組み、熱心に応援してくれたことによって、学校全体の雰囲気が変わった。野球部、ラグビー部、サッカー部など運動クラブが盛んになり、学校全体に一体感が生まれ、生徒たちに愛校心が芽生えた。運動部が活性化するにつれ、キビキビとした「挨拶」をする生徒が増え、「挨拶」は、運動部を中心

に先輩が後輩に教えるようになり、挨拶の輪が広がり、そのことが、就職率100%につながった。

工業高校は、「ものづくり」を教える学校である。筆者は、「ものづくり」には、若者を変える大きな力と人を惹きつける魅力があると考えている。又、ものづくりには、見せる教育も重要と考え、敷地内に本物のジェット機とヘリコプターを展示した。本物やいいものを見ると、発見があり、感動があり、学ぶべき点がたくさんある。一方、ものづくりというものは、決して甘い世界ではなく、基礎的なことを積み重ねていって、ようやく技術力が少しだけ高まることも教えている。筆者の授業では、様々な工具の絵をきれいに描かせたり、工作機械や工具の名前を何度も言わせ、工具を見たときに反射的にその名前が言えるようにしている。

生徒のものづくり欲求を形にするには、「つくりたい」という気持ちを大切にあげた上で、うまく導くことを心がけている。課題研究の授業で「車椅子について考えてみよう」と提案したところ、様々なアイデアと斬新な発想が次々と出て、「夢の電腦車椅子(ワンダー)」が完成した。製作したワンダーを高校生“科学技術”チャレンジに出場させたところ、見事優勝し、国際大会では、世界第3位に選ばれた。その後、可変仰角垂直翼型風力発電機で国際大会に再チャレンジし、世界第2位を獲得した。筆者は、高校生の熱意ともものづくりへの熱い気持ちがあれば、世界の人は認めてくれることをあらためて実感したそうである。

筆者は、王寺工業高校のいいところは、教師の中に「生徒のためになることなら、なんでも協力する」という姿勢があることだと言っている。就職率100%は、後からついてきた結果であって、大切なことは、若者を「やる気」にさせることですと強調している。

(PHP研究所, 222頁, 1,300円) (長田利彦)